

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2015 年度は委員会を 4 回開催した。各回の審議事項は下記のとおりである。

第 1 回 (5 月 15 日)① 2015 年度各種委員会委員構成について

第 2 回 (6 月 26 日)① 2016 年度教育・研究に関する年度計画書について

第 3 回 (10 月 16 日)① 2016 年度予定経費要求について

② 学部間共通総合講座「図書館活用法」の今後について

第 4 回 (3 月 1 日)① 2016 年度予算について

② 2016 年度図書予算配分について

③ 2016 年度図書館各種資料申込みについて

以上に基づき実施された政策の特記事項として、以下が挙げられる。

● 2016 年度において、図書館開館業務委託費、図書館資料整理業務委託費等の契約については、2015 年度並の予算確保ができたが、その他の図書館予算については 2014 年度から厳しい状況が続いている。特に研究用図書費、学習用図書費については若干の増額が実現できたものの、電子ジャーナル、データベース等の契約維持、値上りに対応するため、大幅な増額は実現できていない。引き続き電子ジャーナルの契約見直しを進める。

2.2 収書部会

2015 年度は部会をメール審議のみ 1 回実施した。審議事項は下記のとおりである。

第 1 回メール審議 (3 月 5 日～3 月 10 日)

① アフリカ文庫の中央図書館から和泉図書館への移転について

審議の結果、和泉図書館への移転を承認した。

2.3 特別資料選定分科会

本年度は予算的な事情により、特別資料費による特別資料の公募・選定を行わなかった。

2.4 電子資料分科会

2015 年度は以下のとおり分科会を開催した。

● 第 1 回 (7 月 8 日)： 新規研究用新聞・雑誌、新規学習用新聞・雑誌及びバックナンバー選定、新規電子資料の選定。

● 第 2 回 (3 月 8 日)： 新規電子資料の選定、新規学習用新聞・雑誌及びバックナンバー選定。

上記選定の結果、研究用新聞・雑誌 1 誌 (洋雑誌)、学習用新聞・雑誌 7 誌 (和 7 誌)、バックナンバー 2 誌 (和 3 誌) を新規契約・購入した。またデータベース等電子資料について 2 点を導入することを決定した (別項「9.1 資料購入一覧」参照)。

その他、一次資料データベース『Nineteenth Century Collections Online (NCCO)』については特定課題推進費により 2016 年から導入されることとなった。

雑誌・電子資料費については、特に外国語雑誌の価格高騰と円安による影響、さらにリバースチャージ方式による課税など価格抑制が非常に困難な状況が続き、後年度負担を伴う資料の新規導入が難しくなっていることから、今後既存資料の継続中止検討も進めていくことが確認された。

2.5 図書館基礎資料選定分科会

本年度は予算的な事情により、ScienceDirect の前払いトランザクション購入及び学術雑誌価格高騰の備えに図書館基礎資料費を充てることとした。

2.6 アフリカ文庫選定分科会

2015年度は分科会をメール審議のみ1回実施した。審議事項は下記のとおりである。

第1回メール審議（11月26日～12月4日）

①アフリカ文庫の中央図書館から和泉図書館への移転について

審議の結果、和泉図書館への移転を承認した。

その他図書の購入については、メールによる会議の形式で選定を行った。継続購入図書以外では、24冊の図書を購入した。

2.7 蘆田文庫選定分科会

例年のとおり、定例の分科会の開催は最小限にとどめ、相互の連絡による機動的な選定活動を行った。本年度は以下の資料を選定した。

■ Nieuwe en naukeurige kaart van het keizerrijk Japan, ontworpen niet alleen uit de aantekeningen der Portugeesen en Neederlanders, maar voornaamlijk der Jesuïetsche zendelingen / eerst uitgegeeven door den Heer Bellin te Parijs, en met sterrekundige waarnemingen vergeleken door Eman. Bowen ; nu in 't Nederduits voor 't licht gebracht ... vermeerderd en verbeeterd door W.A. Bachiene ; J. van Jagen sculp. -- [s.n.], 1774.

■ 千島一覧 / 北海道人戯圖 . -- 和泉屋市兵衛 , 1870.

2.8 江戸文藝文庫選定分科会

本年度は分科会を招集せず、メーリングリストによる会議の形式で協議・選定を行った。その結果、購入した資料は以下のとおりである。

■ 犬のさうし鶯梅双六 / 二代目梅蝶樓國貞画 . -- 蔦屋吉蔵梓 , 嘉永5 (1852)

2.9 日本近代文学文庫選定分科会

7月に分科会を開催し、日本近代文学文庫選書基準（案）及び選書方法を確認した。

2015年度は全14点の資料を購入した。主な収集資料は以下のとおりである。

■ 耽溺 / 岩野泡鳴著 . -- 易風社 , 1910.5

■ 旗本退屈男 / 佐々木味津三著 . -- 博文館 , 1931.1

■ エマルソン / 北村門太郎著 . -- 民友社 , 1894.4

■ かのやうに / 森林太郎著 . -- 靱山書店 , 1914.4

■ 十三人俱樂部 : 創作集 / 佐藤義亮編 . -- 新潮社 , 1930.6

2.10 学術・教育成果リポジトリ運営部会

2015年度も、継続して著作権者への許諾書発送、及び許諾論文のメタデータ、PDFデータの作成を業務委託により実施した。対象コンテンツは各学部紀要等の学内出版物、博士論文である。登録論文件数は12,000件を超えた。公開の詳細はリポジトリHPから参照できる。学内でもリポジトリへの関心が高まっており、許諾、コンテンツの電子化について他部署との連携協力体制が構築されてきた。博士論文のインターネットでの公開義務化に伴い、博士学位論文がリポジトリで登録公開されている。

学術雑誌に掲載された論文の登録へ向けて、本学側からの調査、許諾処理方法の検討が現在の課題である。

2.11 図書館紀要編集部会

第20号を刊行した。(A5版, 182頁, 2016年3月11日刊行)

2015年7月3日に部会を開催し、「東日本大震災と図書館」と題した特集を組むことが承認された。また、投稿者の範囲や査読について明記した投稿規程を作成すべきとの意見が出され、次号に向けて検討していくことを決定した。

特集には、教員、卒業生、職員などから多くの論文が寄せられたほか、東日本大震災当時の本学図書館の記録も綴った。節目の号として、第 11 号から第 20 号までの総目次も掲載した。

2.12 書評コンテスト選考部会

応募要領を 7 月に公開。9 月下旬に 4 図書館で計 6 回の「書評の書き方講座」を行い、合計 48 名が参加した。募集期間は 10 月 1 日から 31 日までであり、53 編の応募があった。4 図書館事務室有志の協力による予備審査を経て、12 月 11 日に選考部会を開催し、最優秀賞から佳作まで 12 名の受賞者を選定した。1 月 30 日に中央図書館多目的ホールで授賞式を行った。その後、受賞作品を HP に掲載したほか、らいぶ別冊特集号「第 6 回明治大学図書館書評コンテスト受賞作品集」を刊行して配布した。3 月に中央図書館 1 階エントランス内側に「書評コンテストコーナー」を設置し書評対象作品を展示することにより、図書の貸出を促進した。

2.13 生田図書館ギャラリー運営部会

部会長である小倉副館長の招集に基づき、2016 年 2 月 24 日に生田図書館ギャラリー運営部会を開催した。主な審議事項は、生田図書館 GalleryZERO 利用規約の一部改正及び 2016 年度ギャラリー展示企画についてである。利用規約の一部改正については、ポスター・チラシの「作成代」を「印刷代」とするほか、ギャラリー利用者に誤解が生じないように、一部文言の修正及び追加をすることについて、審議の結果、承認された。また、2016 年度ギャラリー展示企画については、応募案件 9 件と生田図書館事務室企画 3 件からなる全 12 件の展示内容・展示スケジュールについて承認された。

2.14 図書館活用法タスクフォース

図書館活用法タスクフォースは、学部間共通総合講座「図書館活用法」の円滑な運営と講座担当者の資質の向上を目指して設置されたものである。例年行っている授業振り返りのための現履修者対象のアンケートを行った。今回の結果で目立った回答は、グループワークやアクティブラーニングを増やしてほしい旨の意見が多かったことである。

また、生田キャンパスの履修状況を踏まえてコーディネーターから生田キャンパスでの図書館活用法の存続について問題提起がなされた。これを機に、開講してから 15 年経過した図書館活用法そのものを見直し、新たな意義・目的を見出すこととなった。新たな意義・目的については、館長の下でコーディネーター、図書館管理職とともに検討することとしたが、タスクフォースが原案を作成することとなった。タスクフォースでは、1 月以降毎月打合せを行っているが、授業の内容改善とともに図書館職員の講師担当を含めた授業運営体制も連動して総合的に検討する必要がある、2016 年度も継続して検討していくこととなる。

2.15 閲覧部署連絡会

閲覧部署連絡会は、図書館のサービス改善と閲覧担当部署間の円滑な運営を目的として、2008 年 1 月に事務部長・図書館事務長会で運営内規が定められた。連絡会は、上記した目的を達成するため、図書館利用規程に関する事項、貸出・蔵書業務に関する事項、レファレンス・マルチメディア業務に関する事項、その他連絡会が必要と認めた事項を審議するものと定められている（内規）。会議体は中央 3 名、和泉・生田・中野各図書館 1 名の計 6 名で構成され、会議は① 6 月 5 日、② 9 月 28 日、③ 10 月 22 日、④ 12 月 8 日、⑤ 2 月 3 日、⑥ 3 月 4 日、⑦ 3 月 22 日に開催したほか随時メール審議を行った。議題は、7 月 30 日に事務長会から閲覧部署連絡会にあてて諮問された諸事項をはじめ山積し、困難な審議が長期・常態化した。以下に、主要議題を摘記する。

① 当該年度卒業生の年度末の図書館利用方法の変更と年度内のライブラリーカードの発行開始、個人情報を含む資料の扱い、延滞督促マニュアルの変更、リザーブブック制度の変更、貸出期限のアラートメール、ライブラリーカード発行・更新マニュアルの整備、督促マニュアル・督促文の英語化、臨時入館証の統一、その他の報告事項。② 7 月 30 日事務長会から閲覧部署連絡会あて諮問事項の分担、貴重資料閲覧運用手続き、リザーブブック制度の廃止提案、罰則規定（不正利用・不正入館、ILL 未払い、延滞）等。③ 罰則制定、督促業務の

統一など。4館から成る図書館は、校地の立地条件や学部構成の違いもあり、諸手続、申請書式や利用サービスの統一・平準化には長い期間とメンバーの多大の労力が必要と思われる。

2.16 利用案内編集分科会

2016年度の利用案内について、下記のとおり刊行した。

- ・「利用案内（学生用）2016」（A5変形型，28頁，12,500部）

大きな変更点としては、本文記述順序の変更のほか、表紙に「学生用」と明記し、裏表紙に地震発生時の注意喚起の記載を行った。

- ・「教員用利用案内」（A4，12頁，100部）

内容修正の上、学内印刷にて100部印刷を行った。

- ・「文献の探し方」

冊子体での印刷は行わず、内容修正の上、図書館HPで公開の準備を行った。

- ・「OPAC ユーザーズガイド」

既に図書館HPで公開を行っているが、内容の修正を行った。

- ・「OPAC ユーザーズガイド（ダイジェスト版）」

このほか、図書館開館ミニカレンダーの体裁についても意見交換を行った。これにともない、デザインを変更した。

2.17 らいぶ（図書館報）編集分科会

2015年度号（通算第22号）を発行した。『らいぶ』は新入生図書館利用ガイダンスで配布するので、新入生が手に取りやすいよう、昨年同様表紙は各キャンパスの学生たちである。巻頭の教員からのメッセージには小倉副館長が、世界各地で起きている戦争状態や難民を目の当たりにする中で、戦争を起こす人間の本质をつかむために読書は欠かせないと自分の体験から記している。人生の先輩から新入生への深いメッセージである。2ページ以降は、ポータルサービス、明治大学4図書館の館内マップと各館でよく読まれた本のリスト、図書館を上手に利用するための「図書館活用術」など、初めて大学図書館を利用する学生たちを対象にイラストや図を多く入れて分かりやすい図書館紹介パンフレットとした。A4判，カラー刷り10頁，8,000部。2016年3月発行。

なお、前年に引き続き、書評コンテスト受賞作品集を『らいぶ』別冊特集号として、学内印刷でA4判，白黒14頁，400部を2016年3月に発行した。

2.18 中央学習用選書分科会

中央学習用図書選書分科会は中央図書館事務長を座長とし、図書館総務事務室及び中央図書館事務室の各担当から選出された分科会員により形成される。

本分科会は原則隔週で開催されており、和書5社、洋書3社の見計らいによる新刊学習用図書の選定や寄贈本の受入可否決定等を行うものである。

2015年度中央学習用予算額は前年度の予算補填後に比べ約730万円減となった。2014－2015年度切り替え時に行った継続発注の部分停止により、年間継続支出額は昨年度を約200万円下回り改善が見られたが、予算総額減少への対応として引き続き新規単行図書の購入冊数制限を行った。そのため、新規単行図書購入については冊数・年間単行支出額ともに昨年度より減少する結果となった。

中央図書館の現状として、(1)他館と比べて年間継続支出額やその予算額に占める割合が圧倒的に高いこと(2)学習用予算総額の規模は他館の2～3倍であるにも関わらず年間単行支出額は同程度しか捻出できないという状況が見られ、抜本的な検討・解決が必要と考えられる。

2.19 教員による学習用図書選書分科会（生田）

座長の小倉副館長の招集に基づき、理工学部、農学部の学部ごとに開催している。2015年度は6月19日

に理工学部教員，6月29日に農学部教員による学習用図書選書分科会を開催した。

両学部共に学生の読書支援策について協議を行い，直近に控える夏休みの読書支援策として「緑陰読書～教員がすすめる本」（以下，「おすすめ本」）の企画を実施することとなった。

推薦用紙もしくはHPからのダウンロードにより「おすすめ本」を集約し，夏期休暇期間中，新着図書配架棚の一角に教員ごとに配架した。

見計らい選書は各図書館で実施されているが，生田では毎回，選書委員に見計らい期間のお知らせと共に見計らい図書のリストを添付しメールを出している。授業の合間に選書室に足を運ばれる選書委員も多く，大いに学習用選書に協力いただいている。

2.20 雑誌・電子ジャーナル契約検討 WG

学術雑誌価格高騰への抜本的対応策を検討するために，本WGは2013年度に設置された。2015年度は，合計3回検討会を開催した。なお，WGの活動，検討内容については，p.1「1.3 電子資料」を参照されたい。

2.21 リテラシーイベント WG

2014年度中に発足し，2015年度より活動を開始したWGで，図書館の資料や情報の周知を目的として企画されるイベントや講習会の運営を，館を越えて協力し，発展させることが目的のWGである。

2015年度は4月に，利用者への円滑な連絡体制の確立を目的として，ポータルサービスへのメールアドレス登録推進キャンペーンを行い，登録者には図書館特製のブックカバーと『らいぶ』を配付した。これにより2015年度2・3年生では前年度と比較してアドレス登録数がほぼ倍増となり，キャンペーン効果が得られた。

また，図書館として効果的な広報が行えるよう，各館のゼミガイダンスにおいて参加学生を対象としたSNSの利用アンケートを実施し，その結果分析を行った。学部による傾向，SNS別の利用状況，図書館利用頻度と合わせたSNS利用などの結果が得られた。